

伯林留学日記 下

昭和五十七年六月十日発行

著者 山口青邨

発行者 足立龍太郎

印刷 株式会社精興社

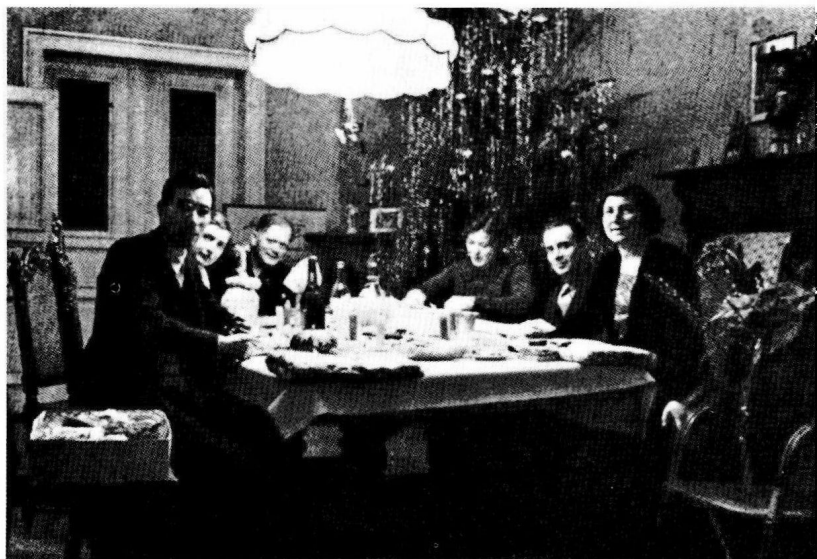
製本 大口製本印刷株式会社

発行所 株式会社求龍堂

東京都千代田区紀尾井町三一二三 文藝春秋ビル九階

伯林留學日記
下
山口幸次

求龍堂



右より、ビュルガー夫人、息子、その妻、フリッツ、ジャンヌ、著者

ワイナハトの宵

此为试读, 需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

伯林留学日記

下

山口青邨

昭和十三年（一九三八）

五月一日（日）

曇後晴、風。

メーデーだ、ドイツではもとはやはり共産党の祭日になってゐたらしいが、今日ではその内容がすっかり変つてゐる。今日はスタディオンの二十万の青少年少女が集まり、そこへヒトラーが出席してクントゲブングを与へる。それからルストガルテンの広場で、マイ・パウムの下でヒトラーが労働者に演説をする——さういふ日である。

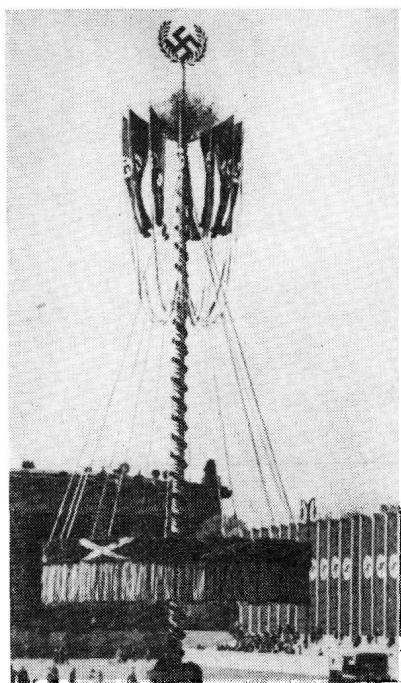
どこへ行つたつて人がいっぱい駄目だらうと初めから諦めてゐたが、昨年はスタディオンに行つてヒトラーの直ぐ下のところで演説を聞くことが出来たので、今日はルストガルテンの式後の様子でも見ようと思つて十時半頃、19番のバスに乗る。このバス、いつもならブランデンブルゲルトールを通過してウンターデンリンデンに行くのだが、今日はそっちが通行止になつてゐるので門の方と反対の方、三菱の方へ折れた。そこで下車してブランデンブルグ門の方へ歩いてゆく。門の下はヒトラーが通るのでS・Aの連中が嚴重に人垣を作つてゐる。ところで今日は大勢ゐるはづの群集がさっぱりゐない、スタディオンの方へ集まつたらしい。S・Aの連中は非常に親切で女子供と一緒に私も最も前に出してくれた、らくらくとヒトラーを送迎することが出来さうだ。十一時半頃、ヒトラーは例のごとく自動車に立つて手をあげて挨拶をしながら通る、顔色もよくつやつやしてをり、しかもにこやか、立派である、私もとうとうヒトラーが好きになつた。

これからルストガルテンの式場に臨むところである。

ブランデンブルゲルトールの馬や女神のゐる天辺に警官や私服の警備兵がうようよしてゐるのは不思議な風景である。

十二時頃、頭の上のラヂオ拡声機がヒトラーの演説を送って来た、よくわかる。労働者とヒトラーが呼ぶ中には精神労働者も含めてゐることがわかった。

式後ヒトラーはまたブランデンブルゲルトールを出て行ってどこかを廻って来てまた門を入って官邸に帰った。私達は三度ヒトラー氏の挨拶を受け三度手を振った。



ルストガルテンのマイ・baum

ルストガルテンに立ててあるマイ・baumを見る、とても大きい木だがあたりの建物が大きいので小さく見える。クラッツがいろいろのリボンを沢山垂れて美しい、写真をとる。この木は今度合併したオーストリアのザルツブルグからわざわざ伐ってもって来

たものである。

高師の平沼君遊びに来る。

五月二日（月）

曇、十二度。

またすこし学校がよひを始めることにする、朝から夕方までぶっつけ講義を聴いたらすっかり疲れた。

一時間講義をして、そのあとすぐ実験室に連れて行って機械や実際の説明を助手にやらせる、かういふ方法はよいと思ふ。日本では中々出来ない、講義に重点を置くからである。こっちの講義は随分雑なところがある。

都庵で夕食をとりながらニュースを見る。支那方面派遣艦隊司令長官長谷川中将が凱旋して後に及川の兄がなった、三十日にもう現地で事務引継をしたやうである。長谷川中将の前に兄が第三艦隊司令長官をやつてゐたのだが、これで二度の務め、この重責は大変だと思ふ、都の主人や新館さんは祝電を打てなどといふ。

今日ちようど蓬餅のお汁粉が出来たといふ、ビールと汁粉で兄のために乾杯をする、兄は甘いものが好きだからいいだらう。この蓬餅は罐詰ださうだ。東京の家でも騒いでゐることと思ふ。

汁粉はドイツ語では女性である、一種の Suppe だからである、女中が Eine Schürke と言ったからわかった。

ヒトラー総統はいよ／＼イタリアの旅に出かけた。

新館氏僕の下宿に寄る。

五月三日（火）

晴、十二度。

よい天気、Hitler Wetter といふことがある、ヒトラーが何かすることがあればその日はいつも上天気だといふのである。僕の短い経験でもほんとうにそのやうだ。以前は Kaiser Wetter といふ言葉があったさうだ。

ヒトラーは今日はイタリアに入って地方を旅行してゐるはずだ、そして今夜八時にローマに着く予定だ。

大学、Brikettierung の講義を聴く。

ハンザ河岸の小母さんとこに寄って、チーヤガルテンを通過して帰る。新緑になって来た、カスタニエンの花が咲き出した、写真をとる。

午後、何か書きたくなって「机の上の三つの邪魔物」といふ文章を書く、案外面白いものが出

来た。

夕飯を都で食つてゐると隣りのビーヤシチューベからドイツの国歌が聞えて来る、歓声が挙る。ヒトラーが今ローマに着いて市民に迎へられたのであらう、何かしら僕も安心したやうな気がする。私は何か不安をもつてゐた、何者かがヒトラーを撃つのではないかと――。この英雄は今どんなことがあつても死なせてはならない、ヒトラーは恐らく多くの敵をもつてゐるだらう、それを承知で出かけてゆく、やはりえらいと思ふ。

フリッツは夜も室の床に磨きをかけてゐる、ワックスを塗ったりしてゐる。

プロフェッサー、滑るから歩く時氣をつけて下さいよ、そのかはりダンスがよく出来るといふ。

五月四日（水）

晴、正金に行つて金をひき出す、マークがこれからはもっと高くなるだらうと思ふので取つておくことにした、いつものことで夏季の旅行のシーズンになると高くなる。

夕方日本からの郵便が入る、新聞、ホトトギス五月号、石ヶ谷君の葉書、盛岡の兄からの写真週報。

“Auschenke von Bieren an Jugendliche unter 16 Jahren ist verboten”

これは Automat の飲物のところにある文字だ、自動販売機だからかうして注意しておかない

といけないわけだ。つまりビールは十七歳から飲める。

五月五日（木）

晴、よい天気、ヒトラー氏が伊太利に旅行してゐるのでそのためだらうと街の人達は言っている。

大学に行って Sommer-Semester の二、三の講義を聴く手続をすます。バイシュラーグ先生と会ふ約束をしてゐたので研究室を訪ねると丁度樋式洗炭機の活動写真を撮るところで撮影技師が来て忙しいところ、まあこっちへ来て見てゐて下さいと言ふので中へ入って見る。この機械は実験室の真中に最近据ゑられたので、樋はガラスから成り、石炭や水の運動が見えるやうに出来てゐる、魔石の砂岩は何か白い塗料が塗ってあつて純石炭と識別出来るやうにしてある、数個の Scheinwerfer が機械を照らす、助手の Preidt 君が大童になつて奮闘してゐる。

午後シタッペンベック先生の講義を二時間聴く、気候がよいのですこし眠くなる。

夕方三菱の藤室氏から電話、私宛の青山君からの書留郵便が藤室氏気附で来たが本人がゐないので郵便局に返した、Kathainen 街の郵便局に取りに行つてくれといふのである。早速行つて貰ふ。

晩、新館氏とタウエンチェンバラストに活動写真を見にゆく。ニュースでヒトラー氏がローマ

に着いてイタリヤ王、エチオピア皇帝並にムッソリーニに駅頭に迎へられるところ、早いものだ。
“Eifersucht”といふトルストイの「生ける屍」の作意を取ったフランス映画、フランス映画はどこかしんみりした味をもつてゐる。

五月六日（金）

曇後晴、風。

ハンザ河岸の小母さんを訪ねて、それから大使館に行って用を達し、それから中管に行って、この間ドイツ商店の時計屋で時計を買ったその一割を払戻してもらふ。ただ一枚の受取証をもつて行って八マーク四十フェニヒもらふ、儲けたやうな気がする。その金でベルンシタインのパイプ二本買ふ、土産にもと思ふ。

床屋にゆく、短く刈ってくれと言ったらドイツ式にやけに短くしてしまった、コメカミあたりは五厘刈よりもっと短いくらい、まるで剃ったみたい、そして頭のとっぺんに真黒く髪が載っかってゐる——どうも面白くないが刈られてしまつては仕方がない。こっちにゐる間理髪は油断がならない、熱湯を頭から浴びせかけられる心配、シャボンを眼の中に入れられる心配、いつも心持よく安心してやってもらふわけにゆかない。

いつものところに行って昼食、食後ホトトギス五月号を読む、ここのレストーランは静かでゆ



つくり本も読むことが出来る、いつもここで一時間くらい読む。

K・D・Wに行って買物、また入らないものを買った。チューブ入のポマードを買ったらこんな紙片が入ってゐた。空のチューブ、塀の口金、銀紙など無駄にしないで、集めて回収、原料を節約することは祖国に対するよい奉仕であるといふのである。

ビュルガー親子から電報「無事ナボリ着、早くて火曜日」といふのだ。

五月七日（土）

朝晴、後曇、午前十四度。

どこへも出かける予定がないので家でゆっくりする、新聞もゆっくり読む、朝のうしろ日が射す。

イタリヤ、シプレーワルドなどの写真まだ整理してゐなかったのでネガチフをオルドナーに入れたりアルバムに貼ったりする、こんなことをしていると一時間二時間はすぐ経つ、もう昼飯だ。いつもゆく Wappen-schänke、近頃ここが僕の巣みたいになった。

路上鈴を鳴らして車をとめて何か呼売をしてゐるものがあ